

『アナログ&デジタル技工の先にあるもの』



新町 愛子

現在、歯科治療において、CAD/CAM技術を応用した補綴装置の製作におけるデジタル化が急速に進んでいる。しかし一方では、義歯のようにまだまだデジタル化が困難であるとされる分野や、そもそもデジタル化が困難である症例も存在する。そのため、デジタル化が進む中で、それを応用できないものに関してはアナログ技工を用いなければいけない。

そこで本講演では、演者の臨床例を提示し、補綴装置の製作においてどのようにアナログとデジタルを活用しているのか紹介する。また、アナログ技工の知識と経験が減少するこれからの世代に対して、どのようにしてアナログ技術を伝承していくべきかについて述べ、歯科技工士が向かうべき今後の方向性を皆さんと共に考える機会となれば幸いである。

【略歴】

- 2005年 新大阪歯科技工士専門学校 卒業
- 2005年 和田精密歯研株式会社
- 2013年 医療法人 翔己会 かい歯科 院内歯科技工士
- 2018年 和田精密歯研株式会社
- 2023年 株式会社パーソナルシステム S.B.Labo